

徳島・守護町勝瑞遺跡

- 1 所在地 徳島県板野郡藍住町勝瑞字東勝地
- 2 調査期間 二〇〇二年（平14）六月～一月
- 3 発掘機関 藍住町教育委員会
- 4 調査担当者 重見高博
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 一五世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(徳島)

藍住町勝瑞は、室町時代の阿波守護細川氏、及び三好氏が本拠とした地である。三好氏の拠点とされる「勝瑞城館跡」は、「勝瑞城跡」と「勝瑞館跡」からなり、二〇〇一年一月二十九日に国史跡に指定された。調査地は、勝瑞城跡の南方二〇〇mの地点で、東西約六m南北約三五m、調査面積は約二一〇m²である。

遺構面は大きく五時期にわたり、検出した遺構には

溝・基壇状遺構・礎石建物・掘立柱建物などがある。一六世紀中葉の掘立柱建物の柱穴からは、埋納された銅鏡が出土した。

木簡が出土したのは、最終遺構面で検出した溝SD四〇〇一とSD四〇〇二である。SD四〇〇二は一六世紀中葉に位置づけられ、区画溝と考えられる。SD四〇〇一はその切り合い関係から、SD四〇〇一に先行する区画溝である。なお、SD四〇〇一からは舟形や、瓦頭に「海恵寺」の銘のある軒丸瓦二点も出土している。

8 木簡の釈文・内容

SD四〇〇二

- (1) 「咄呖呖（符録）急急如律令」 九九八十一 193×25×4 011

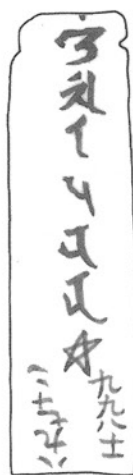
SD四〇〇一

- (2) 「 九九八十一 130×27×4 011
- (3) 「 九九八十一 123×35×4 032

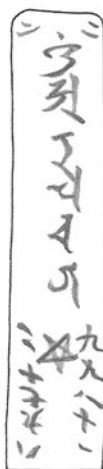
(1) は二片が接続し、完形となる。上下は平たく整形する。(2) は完形。頭部の左右の角を切り落としている。冒頭に文殊菩薩を示す梵

字が墨書される。(3)も完形。冒頭に文殊菩薩を示す梵字が墨書される。

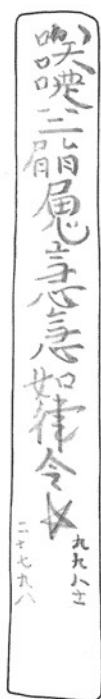
(重見高博)



(3)



(2)



(1)

島根県古代文化センター編集・発行

『山陰古代出土文字資料集成』Ⅰ(出雲・石見・
隠岐編)の刊行

本書は、島根県関係の古代出土文字資料を集成した資料集である。第一部古代出土文字資料集成では、まず文字資料が出土した遺跡ごとに1所在地、2調査機関、3遺跡の概要、4文字資料出土状況、5文字資料の内容、6文献の各項目が記述され、遺跡位置を示した五万分の一地形図を付す。続いて文字資料一覧表として、遺物の種類ごとに(A墨書土器・文字瓦・木器、B木簡・漆紙文書・銘文大刀)一覧表を掲げ、さらに実測図・写真を掲載する。概ね『木簡研究』のスタイルによりつつ、出土文字資料全般、特に墨書土器を対象とするために、釈文と図版を一覧表化したもので、一つのスタンダードとなり得る体裁といつてよい。

第二部は論考編で、関和彦「蛇喰遺跡と忌部神戸」、野々村安浩「土器記載のヘラ書き文字についての予察」、森田喜久男「白坪遺跡出土木簡について」、平石充「出雲・隠岐国出土の墨書土器について」の四編を収録する。

A四版一九〇頁、二〇〇三年三月刊 頒価二〇〇〇円
申込先 島根県文化財愛護協会(島根県教育庁文化財課内)

TEL〇八五二二二二一五八七九